

沖縄戦の語り継ぎ手養成事業 質問書に対する回答書

令和7年5月7日

質問1 参加者の移動時間の負担軽減のため、1日2講座（トータルで5～6時間程度）を開催することは可能でしょうか。またそれに伴い、実施日数が短くなっても問題ないでしょうか。

答

1回の講座時間は、約3時間で想定しています。関連する講座でその方がより効果的であると判断できれば、1日、6時間（2講座）でも開催可能であると考えます。

また、実施日数は養成講座の内容が確保できれば問題ないと考えています。

質問2 本島会場、石垣会場で場所の指定などはございますか。

答

受講者が行きやすい場所で、講座内容をリモートで本島会場と石垣会場を結ぶことが可能な設備があれば、特に指定はありません。

質問3 石垣会場における必要人員数（スタッフ）の規定などはございますか。

答

規定はございませんが、司会と記録する方、オンライン配信する方など必要な人員を提案していただければと思います。

質問4 先輩の語り継ぎ手の活動を知る機会や、互いに情報交換・実践する場として、今年度受講者が参加する講座（例：⑧語り継ぎ手実践に関する講座及び実習等）と「フォローアップ研修」を合同開催することは可能でしょうか。

答

令和6年度の受講生に関するフォローアップ研修の目的は、受講生たちのその後の動向確認と、ガイドとしての資質向上になります。したがって、今回の受講生と合同開催はできません。

質問5 受講者以外にも、一般公開の回（一般の聴講やウェブ公開）を実施することは提案可能でしょうか。

答

事業の趣旨から一般公開は考えていません。

質問6 レポートの作成（課題研究）の成果をもって修了とのことですが、レポートの内容に関することや修了のいわゆる合否判定基準などは、県と受注者の調整によって設定されるという理解でよろしいでしょうか。

答

そのように考えています。